

次号予告

- 特集 理学療法・作業療法の将来
 理学療法の教育・職域の将来……………高知リハビリ学院 中屋久長
 作業療法の教育・職域の将来……………札幌医科大学衛生短大 鈴木明子
 理学療法研究の将来に向けて……………ボバース記念病院 ポール・アンドリュ
 作業療法研究の将来……………金沢大医療技術短大 田川義勝・他
 とびら Occupation Therapy ……………京都府立医大 加藤伸勝
 講座 痛みの生理学 10. 痛みに対する
 物理療法の機序 (I) ……………神奈川リハセンター 福井罔彦
 薬物療法の基礎知識 3. リウマチ,
 その他の整形外科疾患……………川崎医科大 森田能子
 プログレス 脳卒中慢性期における痙攣発作の管理……………都養育院病院 名倉博史・他
 養成校紹介 弘前大学医療技術短期大学部……………菅原正信
 西日本リハビリテーション学院……………栃岡佳樹
 あんてな WHO の障害分類 (ICIDH)……………国立療養所東京病院 砂原茂一
 雑誌レビュー Physiotherapy (1982 年版) まとめ
 ……………府中リハビリ専門学校 江原皓吉
 資料 第18回理学療法士・作業療法士国家試験問題一模範解答 (V)

編集後記

今年は猛暑の夏休みとなりましたが、読者の皆様は、いかがお過ごしですか。

さて今回は地味ではありますが、常に身边の問題として忘れることの出来ない「褥創」を特集として採り挙げました。まず、褥創に対する医学的管理面でその代表的な疾患の「脊髄損傷者」について、兵庫県リハビリテーションセンターの南先生に、「老人」については、石川県立中央病院の内山先生にそれぞれ分担して筆を執っていただきました。また PT・OT よりの積極的なアプローチは別の機会に譲って、ナースングケアーの立場から、「脊髄損傷患者の褥創管理」について国立療養所箱根病院の御嶽氏・他に、高齢者いわゆる老人に対する「褥創の管理と指導」について、山陰労災病院の子道氏・他にそれぞれお書き戴きました。自ら褥創と闘った者からの声として、全国脊損連合会の藤田氏・頸損連合会の中西氏の両氏から随想で発表してもらいました。褥創が現代の医学を持っても

容易に克服出来得ない難物で日常生活上やっかいな問題として、いつまでもまといて来ることが紙面を通じ、伝わって来ます。

色ページのリハビリテーション・インフォメーションは、予定を終了して再び養成校の紹介を続けます。去る5月、6月に開催された、PT・OT 両学会の印象記、講座は痛みの生理学・薬物療法の基礎知識の二本立、資料として第18回 PT・OT 国家試験問題一模範解答 (IV) などと、にぎやかな9月号になりました。

学会も終りほっと一息ついた所ですが、是非日頃の研究成果をまとめて御投稿下さい。7月末で締切りました、第8回「理学療法と作業療法」賞・懸賞論文に目を通していますが、年々投稿数が増え、うれしい悲鳴をあげています。PT・OT の数が増えると共に、質的にも向上しつつある証左ではないかと一人喜んでいきます。

(大喜多 潤)

<編集顧問>

天児民和
九州労災病院名誉院長

五味重春
埼玉県障害者リハビリセンター所長

砂原茂一
国立療養所東京病院名誉院長

津山直一
東京大学教授・整形外科

水野祥太郎
川崎リハビリ学院長
(五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上田敏
東大リハビリ部

荻島秀男
ペインリハビリテーションクリニック高島平
整形外科

大喜多潤
兵庫県リハビリセンター

寺山久美子
都心身障害者センター

富岡詔子
信州大学医療技術短大

奈良勲
金沢大学医療技術短大

福屋靖子
筑波大学

松村秩
都養育院リハビリ部

<編集同人>

安達克己
池田俊雄

伊東元
宇都宮初夫

大金丸幸
鎌倉矩子

紀伊克昌
木村信子

駒沢治夫
佐藤智明

嶋田明子
鈴木昌家

関橋正明
高屋久長

橋元隆
藤沢しげ子

矢谷令子
山下隆昭

(担当 細田・西塚)